

令和2年12月11日

令和2年度保護者アンケート集計結果

青森県立青森聾学校

回収率100%（全20名）

下記の項目について、評価の欄の1～4の該当する数字を○で囲んでください。

4：そのとおりである 3：おおむねそのとおりである 2：やや違う 1：違う

*平均：小数第二位で四捨五入

NO	評価項目		評価						
			4	3	2	1	H30年度 平均	H31年度 平均	R2年度 平均
1	学校は、訪問しやすい雰囲気である。	人数	11	9	0	0	3.5	3.5	3.6
2	学校は、教育方針や教育活動について分かりやすく伝えている。	人数	12	8	0	0	3.3	3.6	3.6
3	学校は、保護者・地域の願いに沿った教育を展開している。	人数	9	10	1	0	3.2	3.5	3.4
4	学校は、授業や行事などを参観する機会を十分設けている。	人数	10	10	0	0	3.2	3.7	3.5
5	学校は、学校での様子を口頭、または、連絡帳や便りなどを使い、分かりやすく伝えている。	人数	13	7	0	0	3.4	3.7	3.7
6	学校は、保護者の皆さんと話し合う機会を適切に設け、悩みや相談に対応している。	人数	12	8	0	0	3.6	3.5	3.6
7	お子さんは、学校が楽しいと思う。	人数	13	7	0	0	3.4	3.5	3.6
8	学校は、お子さんに合った内容や指導方法で授業を行っている。	人数	15	5	0	0	3.5	3.6	3.8
9	学校は、コミュニケーション方法や教材等を活用し、分かる授業の向上に努めている。	人数	14	6	0	0	3.5	3.6	3.7
10	学校は、保育園、小学校、中学校、高等学校等と交流及び共同学習を推進している。	人数	9	11	0	0	3.5	3.6	3.4
11	学校は、補聴器等の使用や管理について、ていねいに教えている。	人数	6	11	3	0	3.5	3.2	3.2
12	学校は、いじめ防止といじめの早期発見のため、児童生徒との面談や「相談カード」への記入や対応を行い、相談を働きかけたり、指導を行ったりしている。	人数	9	11	0	0	3.2	3.4	3.4
13	学校は、事故防止のため、お子さんの健康や安全に気を付けた指導をしている。	人数	12	8	0	0	3.4	3.5	3.6

14	学校は、校舎の整備や校内外の美化と安全に気を付けている。	人数	14	6	0	0	3.4	3.5	3.7
15	学校は、お子さんの健康について、家庭への連絡（ケガ、病気）をしている。	人数	15	5	0	0	3.6	3.8	3.8
16	学校は、お子さんの栄養バランスを考えた給食を安全に提供している。	人数	15	5	0	0	3.6	3.8	3.8
17	学校は、将来に向けての進路指導や進路の情報を伝えている。	人数	11	9	0	0	3.3	3.5	3.6
18	学校は、PTA活動等において、保護者の皆さんと話し合う機会を持ち、協力して活動している。	人数	9	11	0	0	3.5	3.6	3.4
19	学校は、学級費等の学級徴収金や収支決算の説明を適切に行っている。	人数	9	11	0	0	3.6	3.8	3.4
							3.4	3.6	3.6

学校に対して、御意見や御要望等ありましたら、お書きください。

- ・子供は毎日楽しそうに登校しています。学校では、学部を超えて上級生が下級生の面倒を優しく見ているといつも感じます。また、教職員の皆様も、積極的に話しかけて下さり、子供達も楽しそうにコミュニケーションをとっています。これからも続けてほしいです。
- ・いつもお世話になっております。親以上に健康観察をしていただいております。学級新聞を毎週発行して下さり、学校での様子が分かって安心します。このコロナ禍でのご指導ありがとうございます。
- ・幼稚部では付き添いについて
- ・補聴器、人工内耳についてのメンテナンス、教員の専門性について

集計結果の概要

全項目を平均すると3.6であり、「おおむねそのとおり」以上であった。

本校の学校経営の重点として取り組んだ8、9の授業や指導に関わる項目が向上している。また、施設設備や教材備品の整備に関する14の項目が向上した。今年度整備が進んだエアコンの設置や大型スクリーンの設置、リモート授業に関わる備品等の整備が影響していると考えられる。新型コロナウイルス感染症の予防対策として取り組んだ保健衛生に関する項目15、16の項目も3.8と評価が高かった。

一方で、11補聴器の使用や管理に関する項目が、昨年度に引き続き低い結果となった。専門的知識と補聴器や人工内耳の使用や管理に関する職員の研修に一層取り組んで行く必要がある。また、コロナ禍の影響で行事の縮小や中止があったことから、4、18の項目が下降している。今後も子ども一人一人や保護者、地域の願いに沿った指導・支援の充実と適正な教育環境の整備に努めていく。